

自己評価

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	総合評価		学校関係者の意見
安心・安全な学校づくり	(全校レベル) 1)児童生徒一人一人の人権を尊重した教育の徹底 <下位組織レベル> ①情報モラルに関する指導の充実改善を図るために、研修や啓発活動等を計画的に推進する。	①各学部別、コース別に年間3回以上情報モラルに関する研修や啓発を実施する。また、年度末の調査において、90%以上の教員が理解し実践できたと答える。	①情報モラル教育年間計画をいつでも閲覧できるように配置し、各学部会や学年会、コース会等において、授業検討会や研修を年間3回以上実施する。また、年度末の調査を行い成果等を評価する。	①各学部別、コース別に、概ね年間3回以上情報モラルに関する研修を実施することができた。また、年度末の調査において、90%以上の教員が理解し実践できたと答えた。	①情報モラル教育年間計画をいつでも閲覧できるよう校務共有フォルダに配置し、各学部会や学年会、コース会等において、授業検討会や研修を概ね年間3回以上実施できた。また、年度末に調査を行い成果等の評価をすることもできた。	(評定)  B  (所見) ①情報モラル教育年間計画は学校共有のフォルダに入っており、誰でも閲覧できるようにしている。各学部の発達段階に合わせた計画となっており、すぐに授業実践できる。プリントアウトしたものは各学部の情報課員が持っており、各部会で連絡やミニ研修を行うことができた。昨年度より、教員の意識も高まり活用頻度が増えた。	別紙	①GIGAスクール構想がスタートして3年を終えようとしている。始まった頃、本校の児童生徒にタブレットを活用してどんな風に授業ができるのか、不安と焦りしかなかったが、少しずつ少しずつ、児童生徒は活用できるようになってきた。図書情報課としてはICT活用能力の向上のため、一人一人の教員の意識の改善や向上を目的とし、研修や啓発の工夫改善として、小集団のミニ研修を学部ごとに開催してきた。その結果、教員のICT活用能力も、充分とまではいかないものの、向上してきた。ただ、それもまた全員ではない。一部に苦手意識の強い教員がいることも現実である。 今年度は、苦手意識の強い教員にタブレット操作に慣れてもらうため、短い動画制作ができることを目指した。しかし、暗黙のうちに取り違ひどころか一層迷走になりそうであったため、途中でタブレットを使用しているのアンケート回答ができるようになることに目標変更した。その結果95%以上の教員がタブレットでの回答ができた。このアンケート回答を皮切りに教材制作にも取り組めるよう、サポートしていきたい。 学校図書館システムでは、昨年全く出し出し作業ができなかったが、今年度は図書委員による貸出と返却の作業を行うことができるようになり、復活させることができた。今年度、新しく本も増えているので、来年度は更に図書委員会の活動を盛んしていきたい。 今年度重点的に取り組んだ事務系、次年度以降も引き続き継承・充実を図らせていくことが今後求められる。
		①-1 学部別に、ICT活用指導力に関する研修や啓発を年間3回以上実施する。	①-2 ICT機器を活用した授業を年間6回以上実施する教員の割合を90%以上とする。	①-1 学部別に、ICT活用指導力に関する研修や啓発を概ね年間3回以上実施することができた。	①-2 ICT機器を活用した授業を年間6回以上実施する教員の割合は84%以上であった。	(評定)  B  (所見) ①本校はスクールバス添乗や放課後活動当番など、全教職員が一同に揃うことが難しく、一斉の研修の機会が設定しづらい。そこで、学部毎に部会の後やコース別、クラス別の研修の機会を設けて実施した。その成果もあり、概ねほとんどの教員が小集団での研修を受けることができたが、うまく実践に結びつけることができなかった教員が数名いた。	別紙	
多様性を育むキャリア教育の展開	(全校レベル) IV) ICT機器を活用した教育の推進 <下位組織レベル> ①研修や啓発の充実を図ることによって、教員一人一人のICT活用指導力の向上を図る。また、ICT環境や校務システムの充実改善を図ることにより、小学部から高等部まで一貫した体系的な指導や指導に係る校務等を効果的かつ効率的にできるよう推進する。	①-1 ICT活用指導力に関する啓発や研修を年間7回以上実施するとともに、年度末に職員アンケートを実施し、どの授業または場面で実践したかについて調査する。	①-2 時宜を捉えて職員への啓発を図り、具体的な授業実践に関する職員アンケートを年度末に実施し、授業実践の回数等を調査をする。	①-1 学部別に、ICT活用指導力に関する研修や啓発を概ね年間3回以上実施することができた。	①-2 ICT機器を活用した授業を年間6回以上実施する教員の割合は84%以上であった。	(評定)  B  (所見) ①本校はスクールバス添乗や放課後活動当番など、全教職員が一同に揃うことが難しく、一斉の研修の機会が設定しづらい。そこで、学部毎に部会の後やコース別、クラス別の研修の機会を設けて実施した。その成果もあり、概ねほとんどの教員が小集団での研修を受けることができたが、うまく実践に結びつけることができなかった教員が数名いた。	別紙	
		①-3 児童生徒の一人一台のICT機器を活用し易く設定する。各学部や学年、コース別に必要な研修を、企画はできたが実行に至らなかった学部があった。	①-1 ICT活用指導力に関する啓発や研修を年間7回以上実施するとともに、年度末に職員アンケートを実施し、どの授業または場面で実践したかについて調査する。	①-3 児童生徒の一人一台のICT機器を活用し易く設定できた。が、各学部や学年、コース別に必要な研修を、企画はできたが実行に至らなかった学部があった。	① ICT活用指導力に関する啓発や研修を年間7回以上実施するとともに、年度末に職員アンケートを実施し、どの授業または場面で実践したかについて調査することができた。	(評定)  B  (所見) ①大きな行事や遠足等のイベントなどは、比較的ホームページにアップしやすい題材であるため、更新されることが多かったが、課によっては更新するにはインパクトが弱い題材がほとんどを占めることもあり、一箇所に限った更新は難しかった。また、日々のできごとをブログ的にアップする方法等もあり、促しだけではなく一緒に行うような機会を持つ必要がある。	別紙	
地域とともにある学校づくり	(全校レベル) 1)地域と連携した教育活動の推進 <下位組織レベル> ①地域等に対しての学校ホームページによる情報発信を活性化させ、開かれた学校を目指した取り組みを積極的に推進する。	①学校ホームページの情報発信を活性化し、更新が必要なページを年間6回以上更新する。	①学校ホームページの充実に向けての担当者等への啓発研修を推進する。また、更新頻度が上がるように、更新状況等について時宜を捉えて全職員に周知する。また時宜を捉えて、更新ができていない担当者に更新を促すように促す。	①学校ホームページの情報発信を活性化し、更新が必要なページを概ね年間6回以上更新することができたが一部未達成のところもある。	①学校ホームページの充実に向けての担当者等への啓発研修を推進した。また、更新頻度が上がるように、更新状況等について時宜を捉えて全職員に周知した。しかし一部更新が思わしくないところについては、担当者への促しだけではなく、一緒に行うなどの方策の見直しが必要。	(評定)  B  (所見) ①大きな行事や遠足等のイベントなどは、比較的ホームページにアップしやすい題材であるため、更新されることが多かったが、課によっては更新するにはインパクトが弱い題材がほとんどを占めることもあり、一箇所に限った更新は難しかった。また、日々のできごとをブログ的にアップする方法等もあり、促しだけではなく一緒に行うような機会を持つ必要がある。	別紙	

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった